学校番号	1101

令和２年度　数学科

教科	数学科	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	最新　数学Ⅰ　（数研出版）						
副教材等	パラレルノート数学Ⅰ　（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では，課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
・「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程で，自分の考えを発表したり，議論したりする活動を行います。
・ノート，教科書，問題集を用意してください。
・課題は定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。

２　学習の到達目標

数と式，二次関数，図形と計量，データ分析の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観点の趣旨	数と式，二次関数，図形と計量・データ分析の考え方や体系に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	数と式，二次関数，図形と計量・データ分析において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身につけている。	数と式，二次関数，図形と計量・データ分析において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	数と式，二次関数，図形と計量・データ分析における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身につけている。
評価方法	確認テスト 単元テスト 記述の点検（ノート，ワークシート，問題集等） 観察等	単元テスト 定期テスト 記述の点検（ノート、ワークシート、問題集等） 観察等	確認テスト 単元テスト 定期テスト 観察等	確認テスト 単元テスト 定期テスト 記述の点検（ノート，ワークシート，問題集等） 観察等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	数と式	整式の加法と減法 整式の乗法 因数分解 実数 根号を含む式の計算 不等式の性質 一次不等式 絶対値を含む方程式・不等式	○		○	○	a：具体的な事象の考察に式の展開や因数分解などを活用しようとする。数量の関係を不等式で表すことの良さをとらえ、それらを具体的な事象の考察に活用している。 b：一つの**文字に着目したり、一つの文字に置き換えるなどしてまた数の四則計算に関心を持ち、数量の関係を一次不等式に表し解き方を考察することができる。** c：式を用いて事象を適切に表現することや見通しを持って式を扱うこと。簡単な無理数についての計算することができる。一次不等式を解くことができる。 d：乗法公式および因数分解の公式を使うことができる。不等式の意味や性質を理解して解を求めるための基礎的な知識を身につけている。	確認テスト 単元テスト 定期テスト 記述の点検 観察等
	二次関数	二次関数とグラフ 二次関数の値の変化 二次方程式と二次不等式	○	○	○	○	a：二次関数とそのグラフについて関心をもち、それらを活用して二次関数の最大･最小を求めることができる。二次関数のグラフとｘ軸の位置関係を基に、二次方程式や二次不等式の解について考察しようとしている b：二次関数の式とグラフを関係つけて考察することができる。二次関数のグラフとｘ軸の位置関係を二次方程式や二次不等式の解に対応させて考察することができる c：二次関数を書くことができる。グラフより最大値･最小値を求めることができる。二次関数のグラフを利用して二次方程式や二次不等式の解を求めることができる。 d：練習問題に取り組もうとする。	確認テスト 単元テスト 定期テスト 記述の点検 観察等

後期	図形と計量	鋭角の三角比 三角比の相互関係 三角比の拡張 正弦定理と余弦定理 図形の計量	○	○	○	○	a: 三角比に関心をもち、それらを直角三角形の計量に活用しようとしている。正弦定理・余弦定理が有用であることを認識し、それらを図形の計量に活用しようとしている。 b: 直角三角形より三角比を求めることもできる。三角比の相互関係について考察することができる。正弦定理・余弦定理を導く過程を考察することができる。 c: 直角三角形を用いて考えられる計量の問題を三角比の記号を用いて解くことができる。正弦定理・余弦定理を用いることができる。 d: 練習問題に取り組もうとする。	確認テスト 単元テスト 定期テスト 記述の点検 観察等
	データの分析	データの散らばり データの相関	○		○	○	a: 四分位地数・四分位偏差・分散・標準偏差・散布図・相関係数をもちいてデータの傾向を把握し、それらを事象の考察に活用しようとしている。 b: 四分位地数・四分位偏差・分散・標準偏差・散布図・相関係数をもちいてデータの傾向を把握し、それらを的確に表現することができる。。 c: 四分位地数・四分位偏差・分散・標準偏差・散布図・相関係数を計算することができる d: 練習問題を取り組もうとする。	確認テスト 単元テスト 定期テスト 記述の点検 観察等

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。